11月號

婦人運動

第5巻第10號



大正十三年十一月廿二日第三種郵便物認可（毎月一日一回發行）昭和二年十一月十七日印刷納本同二年十一月二十日發行——第五巻第十號

職業婦人社發行


フローリン
少し油の入つてゐる頭髪香水兼香油であります
毛髪の艶を増しかゆみ、ふけを止める
は勿論、束髪用として又殿方
の髪油として最高級
の香油です
（大一、六〇）
（小一、二〇）
各地資生堂チエインストアーにあり
各店同品質同値段であります
東京銀座
資生堂

堺利彦著（無產者パンフレット）

價二十錢 税二錢

ロシヤ革命 十一月七日

新世界は一夜の中に生れない。空想の國が忽ちにして晴天の曙に咲き出るやうな革命詩は現實に見られない。ロシヤの勞農革命は、舊權力破壞の當日殆ど一滴の血をも見なかつたが、その後、饑寒と、苦役と、混亂と、激鬪との間に、既に滿十個年を經過した。

本書はロシヤのプロレタリヤが初めて、政權をブルジョアの手より奪取した一九一七年十一月七日前後の光景をジョンリードの名著『世界を震憾せる十日間』其他を參照して、有りのまゝを書かれたものである。革命の策根地、スモルニー館、諸官衙の占領、七日情勢概觀、各宮乘取、全露ソビエット大會の光景、トロツキーの確信ある皮肉。等十週年を祝ひ且つ知る爲に必讀すべきである。尙今より約五十餘年前世界最初の勞働者の天下を實現した事實を書いた『パリコンミユンの話』（價二十錢）を併せ讀めば戰術其他に得る所が甚だ多い。

最新刊

山川均著 價二十錢

■私は斯う考へる

昨年來喧しく叫ばれて來た理論鬪爭に對して、永らく沈默を守られた氏の答へである。理論鬪爭の中心を流れる各種の問題に就て詳細にして且嚴密なる批判を加へられ、徒に聲のみ大きくし、理論鬪爭の文句に醉ふて、空虛な、遊戲に等しき行動理論に對してキタンなき批評と叱正を加へられてゐる。吾等は眞實の意味に於ける理論鬪爭の聲を考へるとき、先づ此書を繙くことを忘れてはならぬ。

荒畑寒村譯 價十錢

■勞働運動と理論鬪爭

世界無產階級運動の理論家にして實際運動家たるレーニンの戰術を如何にして我が國の實際運動に折込み、當ハメるか？ 過般來喧しく叫ばれてゐる理論鬪爭も一にこの問題にかゝつてゐる。この書の內容も勿論これに盡きてゐるが、經驗多き先覺はこの問題に對して何と答へ、何と主張せらるか？ 只に實際運動家に止まらず、無產者諸君の必讀のものと堅く信ずる。

■圖書目錄（邦書 洋書）無代進呈 二錢切手封入事

發兌 東京麹町八ノ二〇 振替東京二四六二六 無產社

第五巻第十號 婦人運動（十一月號目次）

婦人運動

十一月號



無產政黨の政綱と福利施設

小岩井淨

一

昨今所謂無產政黨と稱するものが簇生してゐる。その中には地方的なものがあり全國的なものがある。全國的なものとして勞働農民黨、日本農民黨、社會民衆黨、日本勞農黨の四者が數へられる。

只私は念の爲め、豫備智識として、同じく無產政黨といふけれども此等四政黨の特質を知つていたゞくために、各政黨夫々の立脚點について簡單な說明を加へてみたい。

日本農民黨は、名の示す如く農民に基礎を置いてゐる。而もその「農民」はある程度まで都市――都市住民に對抗した意味に於ての農民である。農民のうちでは決して地主黨とはいつてゐないが、果して所謂無產農民の基礎の上に立つものであるかは極めて疑はしい。

社會民衆黨は都市農村何れにも亘つてゐる。けれども農村に於ては、今の處はあまり地盤をもつてゐないで寧ろ都市の政黨となつてゐる。そして都會に於ては相當有力な右翼勞働組合(例へば日本勞働總同盟、官業勞働總同盟等)が極力支持してゐる。けれども政黨としての社會民衆黨は、所謂「勤勞階級」といふ考へ方をしてゐる――そして勤

勞階級は國民の九五パーセントを占めてゐると云つてゐる事――からでも歸納できる樣に、プチ、ブルヂョア（小市民階級）の意識を基調にしてをるのではないかと思はれる。

そこへゆくと勞働農民黨は、勞働者農民その他すべての被壓迫民衆の政黨であると主張してゐる。一面中產階級小商人、サラリーメン等を勿論抱擁するのであるが、その指導精神があくまでもプロレタリアートとしての階級意識に立脚する處にそれの特徵が伺はれる。

日本勞農黨は勞働農民黨の左傾、社會民衆黨の右傾に慊らずして結黨したものとされてゐる。何れが左傾であり、右傾であり、或ひは何れが無產階級の進む可き正道であるか否かは暫く問はぬとして、日本勞農黨は大體に勞農の組合といふものに重點を置き、それを基礎にした政黨といふところに獨自の立場と色彩とを持つてゐる。

今、世人は日本農民黨は極右であり、社會民衆黨は右傾であり、日本勞農黨が中間、勞働農民黨が左傾であると稱してゐる。大體に於て何人も納得する樣である。

二

如上の四政黨は創立結黨以來未だ日も淺いが、その創立に當つて各々政策を發表してゐる。政策は政治、外交、財政經濟、勞働、教育、社會各方面に亘つてゐる。そしてその社會に對する政策中に於て若干の社會施設――或ひは民衆の福利施設とでも云ふ可きものを發表（といふのは當らない。實は要求）してゐるのである。

處が今度の府縣會議員改選に當つて、各黨とも從來の政策よりもより詳細なもの、或ひは又殊に直接府縣の政策となる可きものを發表してゐる。福利施設といふ樣なものについても、新政策といふか或ひは原則の具體化といふか、とにかく若干の興味ある問題が見られる。私は今之を御參考までに列擧してみやうと思ふ。

○施設と呼ぶ可くや〻不適當なものもあるが、密接な關聯あるものは併記する事にした。

○國家の事業として要求するのか、府縣その他の事業として要求するのか判明しないものが多い、此の中には實は必ずしもその何れでなければならぬと判然定めてかゝらないものと見る事の出來るものもある。

○結黨當初の政策については筆者において傍點を附す事にする。そして今般の新政策をつゞけて列記するが別個の體系であると御承知ありたい。

一、勞働農民黨

一、失業、疾病、養老、災害保險制度の制定

二、居住權の確立

△公益事業

左の事業の公營並に其の增設、改善、無料解放を要求す

一、病院、精神病院、癩病院、診療所、細菌檢查所、結核療養所、巡回病院、助產院等の衞生的醫學的設備

二、養老院、孤兒院

三、職業紹介所

△左の事業は原則として市町村營とすべきである

イ、無料托兒所、無料宿泊所

ロ、火葬場

ハ、浴場

ニ、市場、公衆食堂、公益質屋

ホ、乘合自動車

△住宅

一、完全なる居住權の獲得

イ、公營住宅の增設、改善及その分配の公正

ロ、省略

ハ、省略

ニ、通風、採光、上下水道等設備不完全なる不良住宅の公費による改善(以下省略)

二、廣大なる邸宅、別莊、庭園その他社會的に不必要なる一切の場所並に學校、寺院、敎會、公會堂その他一切公施設は廣く一般民衆の利用に解放さる可きこと

二、日本勞農黨

一、職業紹介制度の民衆化

二、失業、疾病、老廢、災害保險制度の確立

三、住宅の公營居住權の確立

八、診療機關の公有化

△公營問題

ロ、無產階級の爲めの公營病院擴充

ハ、助產の公費負擔

ホ、公營住宅の擴充

ヘ、浴場の公營

△社會事業及び地方衞生

イ、失業者救濟制度の確立
ロ、養老院、孤兒院、無料托兒所の完備
ハ、避病院その他傳染病豫防對策の徹底的改善
ニ、公園の擴充

三、社會民衆黨

△社會的施設の徹底
イ、保險制度の完成
1、醫藥救療機關の民衆化
A、無料診療所の公營普及
B、健康保險制度の改正及適用範圍の擴大
ロ、醫藥救療機關の民衆化
2、職業紹介所の勞働組合管理
ハ、住宅其他生活設備の完成
3、葬儀並びに助産の無料施設
△社會施設

四、日本農民黨

一、病院醫藥の國營
二、生命養老災害失業疾病保險の國

三

以上各政黨の政策要求についてその排列表現等の巧拙は、全部の政策項目を綜合して考へなければ批評の出來ない事でもあり、それはこの場合どうでもいゝ問題の樣に思ふ。之を既成政黨の政策といふものと對比した場合、後者にとつては、その政策は今日現在か尠くとも明日天下をとつた場合には直ちに實行の責任を負はされる公約となるに反して、以上前四者何れの政黨にとつても、自己が內閣を組織して實行するものとして公約するといふよりも、時の支配階級に對して要求するといふ性質をもつてゐる點で非常な相違があるのだが、それにしても、既成政黨などは民衆の社會生活に非常な關係のあるかうした所謂福利施設といふ樣なものについては殆ど問題にせず、或ひは極はめて曖昧であり生ぬるいのに對して、具體簡明に、而かも相當力こぶをいれて要求してゐるところは流石無產政黨だといふ感を深からしめる。

茲で一つ御注意しておかねばならぬことは、勞農黨などは非常に政策が詳細を極はめてゐるに反して、他は必らずしもさうでないものがある。併し詳細でない方も之だけで充分でそれ以上必要ないとまでいふ樣な確乎不動のものではないのであつて、時には中心的な點をつかまへて代表して主張しておく方が印象的で、有效だといふ樣な綱領政策の立て方に依つてゐるのもあるのだから、決して之が智慧のありだけではないし、勿論政策綱領は一面進化もするのだからどこまでも一種の未定稿と見なければならぬといふ點である。

それにしても、同じ無產政黨間で黨派の分立があるだけに、各々の立場なり調子なりに前述の如き差異がある。そして左翼とされてゐる勞農黨の如きは、觀念的理論的に走つて現實的でないと他の三政黨から極力批難されてゐる。併し乍ら、その勞農黨の政策が社會施設といふ樣な狹い範圍でみても最も詳細であり具體的であるのに、右翼であり從つて現實的であることを唯一の誇にする日農黨、民衆黨が極はめて漠然としてゐる對照は、實に私には頗る興味ある事實だ。

尤も政策要求などといふものはなか〳〵實現するものではないから、曖昧摸糊として伸縮出來る方が眞の意味で現實的だと仰言る方々も居られるかも知れないが、まアそんな事は、今問題にす可きではなかつた。私は內容について少し考へてみやう。

四

以上列記した政策項目を大體分類してみると左の五種類になる。

一、社會保險制度（失業、疾病、養老、災害）に關するもの

二、醫藥公營（各種衛生的醫療的設備の解放）の問題に關するもの

三、助產、葬儀或ひは養老院、又は托兒所等の公營（或ひは公費負擔）問題に關するもの

四、職業紹介、失業救濟に關するもの

五、住宅問題に關するもの

以上いづれも特に目新らしい問題ではないやうに思はれる。第一の社會保險のうちでも、疾病、災害等に關するものは例の健康保險に依つてある程度まで既に實現してゐる事になる。たとひ健康保については、朝野盛に議論のある樣に極はめて不完全であり、且つその範圍も限られてゐるにしても、とにかく是等保險については大體早晩實現の可能を多分にもつてゐるもので、そのあるものは既に內務省あたりで立案中であるやにも聞いてゐる。

その他の四項目についても、部分的にはおそらくその何れも既に實現されてゐると云つていゝ。然り部分的にである。無產政黨の是等社會施設に對する要求は、實は特に獨創的な目新らしい何ものを持つてゐない。けれども併しそれが部分的であり、お情け的であるのではなくて、大がかりであり全般的であり、そしてある意味では一つの制度としての要求ででもある點に充分そのユニークな主張である事が肯かれるのではなからうか。

殊にそのうちでも根本的なものは、醫藥公營問題と住宅問題ではないかと思はれる（保險制度は既に準備時代とも思はれるし、既成政黨の政策中にも發見してゐるから、暫く問題の外に措く）

民衆の生活にとつてその保健衛生の爲めにいかに醫藥が必要であるかといふ事は、特に取りたてゝ云ふまでもない（無產政黨は健康保險法改正問題から出發して所謂醫藥分業を主張してゐるが、之は併し、現在の第一步であつてそれの公營にまでゆく處の前提にすぎない）それだけにその公營問題（國營か公營か、公營としては如何にするか、必らずしも一致してゐないが、此等は今後の研究に俟つ可きものであらう。それから勞農黨の政策などは具體詳細であるが直接醫藥公營とは主張してゐない。併しながら結局此の主張の上に立つてゐるだらう事は充分推知できる）は單なる福利施設と云ふよりも重大な制度の改革と見ねばならぬ。同樣の事は住宅問題についても考へられる。民衆の生活にとつて意味する住宅問題の重要さはこれ又論する必要がない。然るにこの住宅問題の解決が、單に借家法の改正

とか公營住宅の設置とか云ふ程度ならば簡單であるが、更に溯つて居住權の確立にまで及ぶときに、それは一個の福利施設と云はんよりも重要な制度の改革と見なければならなくなる。

五

以上の如く民衆の生活の安定と向上とについて當然に、最も關心すると思はれる無產政黨の政策綱領殊に社會施設に關するものであるからといふので多くの期待と興味とをつなぐけれども、その主張の項目については實は殆ど新奇な何物も求められなかつた。併しながらその要求の强硬に於いて、その根本的な意味をもつ點に於いて、やはり無產政黨でなければ主張出來ないと思はれるものがある。夫は單に現在の社會の缺陷から來る弊害に對する應急の施設といふよりも、よりよき社會制度に到達する一段階として考へられるところに、深い意義をもつものと云はねばならぬ。

私は更に此等の政策が、もつと科學的な調査と研究との上に立つて、立派な系統ある主張として社會にアピールされそして實現される日を希つて止まないものである。そしてそれの實現のために、この無產政黨の主張に立場の相違を離れて各階級の人々の協贊と努力とが與へられなければならない。今日の複雜な社會では、いろ〳〵な意味に於いていろ〳〵な分化が行はれてゐるのであつて、全ての立脚點を同一にしなければ行動が出來ないといふのではなかなか問題は解決しない。一つの問題、一個の目的、之を同じくする場合には之を必要とするすべての階級、すべての人々が共同の陣列を張つてその問題、その目的を達成する必要がある。社會の進步はそこに始めて認められる。無產政黨への去就については各人それ〳〵の立場があらうけれども、その主張に於いて眞理が認められ必要が感じられる場合にはすべての立場をすてゝ、それの支持が何より大切な事ではなからうか。私はかういふ意味からしても、無產政黨の政綱中に見える福利施設の主張について考へてみる必要がある様に思ふ。(九、二三)

惠まれぬ農村の生活

我が國農村の衛生狀態改善は國民保健上の主要なる懸案の一つとして、內務省衛生局に於ては、豫て全國各地方の代表的左の農村を選んで（一）、全村民の健康診斷、體格檢査（二）、住宅狀況（三）、飲料水の檢査（四）、寄生蟲糞便檢査等の調査中であつたが、この程漸く右大規模の調査を完了した。近くこれを基礎として農村保健施設の改善農村衛生狀態の向上等につき具體策を研究することになつた。

調査村名は左の如し。

一、九州地方　佐賀縣杵島郡佐留志村
一、東海地方　靜岡縣周知郡宇刈村
一、山陽地方　山口縣吉敷郡平川村
一、四國地方　愛媛縣越智郡淸水村
一、山陰地方　島根縣簸川郡鳶巢村
一、東北地方　秋田縣山本郡富根村
一、近畿地方　奈良縣生駒郡筒井村
一、關東地方　群馬縣邑樂郡鄉谷村
一、北陸地方　福井縣今立郡粟田部村

×

調査農村に於ける出生死亡を全國五萬以上の都市のそれと比較するに、大體農村は出産率、死亡率、人口增加率共に都市よりも多く、これを既往十年間に於ける人口千に對する割合を見るに左の通り。

（人口千に付）	農村	都市
生産	三四、四五	二五、七〇
死亡	二一、二二	一九、六〇
死亡に對する生産增加	一三、二三	六、一〇

死亡原因の主なるものを順位に擧げれば、

一、下痢腸炎二、肺炎二、腦出血四、畸形及先天性弱質五、肺結核六、老衰七、腦膜炎八、幼兒疾患九、急性氣管支炎十、腎臟炎十一、

等である。

×

農村の乳兒死亡　乳兒死亡は一般は東北、北海道の如き寒冷地方に多く、南部地方の暖國には少い、死亡の原因は南北を通じて發育不完全、先天性弱質、氣管支加答兒、肺炎、下痢等である。

×

農村の體格　農民の體格は第一は營養不良、第二に寄生蟲、其他の疾病の蔓延の爲めに、都會に比して優良とは云へぬ、調査農民一萬八千七百四十五人の中健康診斷の結果健康者は千八百九十六人に過ぎず、他は悉く寄生蟲其他の疾病を有していた、未だ營養狀態不良の原因は都會に比して甚だ粗食にして殆ど動物性食物を攝取しない爲めであつて、殊に發育期の兒童の營養に於て顯著である。

×

飲料水　調査農村九村中八ケ村は何れも井水を用ひつゝあるが、これら飲用水二千七百九十五を檢査の結果合格せるもの千二百八十一に過ぎず

×

農村の住宅　地域的には一種の保養地たるの觀あるも、その家屋の構造よりして通風換氣、採光、便所の構造等は甚だ不良である。

婦人を侮蔑する言葉

……三面記事から覗いた現社會……

開地敏子

私は毎日の新聞記事から様々のことを教へられ、亦考へさせられる。

新聞紙と云ふ窓から覗いた世相、なんて云へばあまり大袈裟過ぎ樣が、二三新聞記事に就いて感じたことを書いて見度い。

其第一は、或日の新聞に

『泣き落しの一手で期待される女辯護士』

と云ふ見出しで某紙が『司法省が多年その實施に心膽を碎いて居た辯護士法改正案が愈々委員會の成案を遂げたので、來議會に提出される段取りであるが、該法案中最も異彩を放つのは何と云ふても婦人の辯護士資格を認容することである元來、婦人辯護士の資格認容に就いては委員間に種々論議されて居たが、時勢の進運と倶に當然辯護士資格中に女性を加へても差支ないと云ふ事になり、司法省では豫算に何等關係のないことだから來議會通過後は直ちに實施されるであらう』と云ふ記事を掲げ、末尾に濱田政務次官の談として、嘘か誠かわからないが次の樣な談話を掲載してゐた。

即ち曰く『裁判は什うしても男而已では完璧を期し難いので、女辯護士の資格を認める事になつた。が女辯護士として法廷に出入する服裝は矢張り和洋服の上に男と同樣の法服を着ける事になる。そして仕事も、女性の犯罪とか、又は柔らかく裁判する必要のある事件などが至て女辯護士の事實で、墮胎、嬰兒殺、遺棄姦通、殺人、窃盗、產婆の墮胎幇助其他女に關する裁判に、女辯護士が得意の泣き落しをやれば裁判官も相當に動かされるかも知れぬ云々』

と云ふて居るのである。

何でもなく素通りに讀んで仕舞へば別に何でもなからうが、少しつむじを曲げて讀むとグツト癪に障つて聞き捨てならぬ個所が一つある。

それは即ち、此記事の見出しに採用されてゐるところの文句で『得意の泣き落しをやれば裁判官も相當動かされるかも知れぬ云々』と云ふ一言である。

昔から成程泪は女の武器であると云はれ、女自身もそれをよい事にして泪攻めの戰法で可成男性を操縦して來たことは事實であるが、だが併し、これからの女は泪攻めの戰法なんて裏道や間道をいつちやいけない。

まして、新らしき婦人開放の道を開拓仕樣と雄々しく蹶起したる女が最も嚴正

を尊ぶ司法權上に、紅涙を利用して裁判官を動かす、なんて不心得はもつての外裁判官を動かすものは眞實と至誠の外に何があらうか。卑しくも女辯護士として身を立て樣と云ふことは、娼婦や藝妓が商買する樣な氣持で、色氣や、秋波や、技巧で相手を操縦するのとは大いに筋道が違ふ。それは女性でなければ知り得ない樣な推理力汲めない同情或は判斷力それに加ふる慈愛に依つて、被告人の爲に正しき辯護をなすと云ふことが婦人辯護士の責務であつて、紅涙で裁判官を右左すると云ふ樣な不埒な考へをもつてはならぬことは當然である。

まさか濱田政務次官が、婦人辯護士の得意な點は泣き落しの一手だなんて、まさかそんな婦人を輕蔑した言葉を話されたのではあるまい。多分これは新聞記者のヂャーナリズム的諧謔にしか過ぎないだらうとは思ふもの丶、私の見たどの新聞紙もが『得意の泣き落しの一手で云々』と筆を揃へて婦人辯護士を觀察してゐるらしい記事を讀むと私はたまらなく口惜しく腹立しい感じが強く湧いて、遂に此一文を書くべく餘儀なくされた。

私達は婦人辯護士ばかりでなく、總ての仕事の上に正々堂々と、男性の性的對照と云ふ樣な觀方から離れて立ち度い。

性的對照から離れてと云ふ事は、男性との性的交渉を斷絶すると云ふ意味ではない、サウ誤解して貰ふと世界が亡びて仕舞ふから甚だ困る。

つまり『女なるが故に』かくあらうと云ふ特別待遇、差別待遇を去つて實力だけを買つて貰ひ度いのである。

然るに世間は女の實力を買ひたがらないで、女の媚を頻りに買ひたがる。

女はいくら腕があつても、頭が確でも女だからと、常に經濟的に低い地位で甘んじるべく强ひられてゐるではないか。

女の實力を買はない男が、女の媚には實に千金も萬金も惜しまぬから、女は實力を賣るより媚を賣る方が近道だと、目の先きの慾に吊られて、大きな婦人全體の地位の向上を少しも眼中に置かないから婦人はいつまでも男子の玩弄物であらねばならなくなる。

婦人が婦人自身の內心の要求に目醒めて、モット高遠な理想目の先き勘定から逃れて、婦人と云ふ階級全體の爲に努力精進する樣にならなければ、婦人に參政權が與へられても、結社權、公民權が與へられても、決して婦人の地位が確立するものぢやないと私は信じる。

婦人が現在の樣に利己主義で、婦人全體の幸福と云ふことを考へないならば婦人辯護士や婦人代議士が出現しても何にならうか。

私は濱田司法政務次官の談話の一節から女性への皮肉と、女性への侮蔑の多分に含まれてゐることを感じさせられないでは居られなかつたのである。

新露西亞の子供と婦人

——革命十年間の其成長——

篠澤操

一

一九一七年十一月のロシヤ革命は、資本主義の下に被搾取者として抑壓されて來たプロレタリアートが、始めて自らを支配階級として人類の歷史の上に書き載せた日である。卽ち未だ曾てなかつた新しい歷史の頁が開かれた日であると同時に、被壓迫人民層の最も大きな一つである勞農婦人とその子供の勝利でもあつた。

舊ロシヤ獨特の專制主義と、資本主義と、又その上に男性と、三重もの抑壓の十字架を負はされて來た露西亞の勞農婦人は、プロレタリア革命によつて完全に解放された。彼女等は男子と全く同等な權利と地位を、立法的にも、資生活的にも、獲得して、その重要なる社會的職能を完全に行使し得る基礎を與へられた。

爾來正に十年間、軍事と、經濟と、文化と三つの戰線の目覺ましい展開の上に、プロレタリア國家の基礎が益々健實を加へ、生長を遂げるに及んで、國民の他の一半たる婦人の社會的國家的役割は非常に重大なものとなつた。

今最近の資料と統計とによつてソウエート聯盟の子供と婦人の生長を略述してみたい。

二

革命十週年を迎へるに當り、ソウエート聯盟の赤色少年團はその數百五十萬を超えるに至つた。

ソウエート聯盟の勞働者がすでに勝利をもつて權力獲得の鬪爭を終へ、次で國家の經濟的恢復の問題がやつて來た非常な混亂の際に生れたのが、プロレタリア少年運動であつた。この運動はその生成の最初の日から、ソウエート聯盟の勞働者によつて支持された。プロレタリア青年大衆は、少年團の組織化に着手した。その呼びかけに響の如く應じたのは幾十萬といふプロレタリア少年であつた。赤色少年團は續々と急速に成長し始めた。

今やプロレタリア少年團が組織されてから五年になる少年共產黨運動は現在全ソウエート聯盟を席捲してしまつた。少年團の勝利の喇叭の響かないやうな、また組織された少年團の赤い襟布のひらめかないやうな一つの村もなければ地方都會もない。中央の諸都市に於ても、廣く張られたソウエート聯盟の遠隔の地に於ても、赤色少年團の枝隊が生々と働いてゐる。

ソウエート聯盟の少年團は勞働者農民大衆の間に十分信用を獲得した。彼等はたゞに少年の注意を惹きつけたばかりでなく、成人の注意をも惹きつけたのだ。

これら勇敢な革命的少年達はすでに農村へ進入しつゝある。そして一歩々々自らの組織のために農村の伸び行く時代を獲得しつゝある。彼等は十歳乃至十三歳の少年としては、到底爲し得まいと思はれるやうな偉大な遠征を敢行してゐる。父親と共に苦鬪しつゝあるドイツの少年を扶けんがために、職場に於て、倶樂部に於て、働き得る自己の能力を示したドイツ遠征は、彼等によつて爲されたものであつた。

少年團は夏期獨り立ちで『野營』をする。そして其處で自分等の生活と仕事を結びつけようとする。これこそ、かのイリイッチが鞏固にすべく命じた都市と農村の近接な契合である。

今や、少年團がその力を適用し得ないやうな、またソウエート權力を扶け得ないやうな社會的仕事

の分野はないものゝやうである。蒙昧と宗教とに對する闘爭も、新しい學校の建設も、勞働者大衆の健康保護も時代に取殘された家庭に於ける舊生活との闘爭も、西方諸國の兄弟への助力も、浮浪少年群克服の闘爭も、將又菜圃も、田野も、森も、――すべて彼等にとつては學校として現はれてゐるのである。

ブハーリンは第十三回黨大會に於て云つた『最も多く將來を約束するものとして、また極めて華々しい、眼を樂しませるものとして現はれてゐるのは、少年團の組織である』と、眞苦しい試錬の幾年、飢餓と窮乏と混亂の幾年はすでに過去のものとなつた。

三

過去の數年間、婦人勞働者は闘爭に於て末端の位置をさへ占めてゐなかつた。たゞソウエート權力の諸條件の中にあつてのみ、最も遲れた、最も抑壓された舊露西亞勞農婦人大衆を振ひ起たせ、彼女等を國家的建設の事業へ惹き入れることが可能であつたのだ。そしてたゞソウエート權力によつてのみ、勞農婦人の政治的解放の問題は解決され得たのであつた。××の民主々義國は一つとしてこの問題を解決したものはなかつた。事實解決し得る能力はないのだ。たゞ××主義的奴隷制度の鐵鎖が××される時にのみ、婦人勞働者は社會的活動の廣濶な道へ歩み出すであらう。ソウエート社會主義共和國聯盟の社會生活へ社會主義的建設へ引入れられたのは、昨日まで遲れてゐた、婦人勞働者――勞働者農民の妻の、廣汎な大衆である。例へば一作年婦人部の代表者は二〇八七〇四人であつたのに昨年は三七八一六三人となり、約九百五十萬の婦人がこれらの代表者の選出に參加した。市及び村ソウエートの委員となつてゐる婦人は六萬に達し、その他勞働組合、コオペラチヴ等に働いてゐる勞働婦人の數は十萬にして足らない有樣である。ソエウート權力確立闘爭に於て勞農婦人によつて爲し遂げられた道は多難な苦重な道である。それ故にこそ勞農婦人は確く信じてゐる。――たゞソウエート聯盟の中にあつてのみ、自ら××を管理する可能性が自分等に與へられるといふことを。

新ロシアの婦人と家庭生活

レーニンは云つた――

家庭勞働は、多くの場合婦人の行ふべき行爲の内で最も不生產的な、最も非合理的な、最も野蠻な最も困難のおほい行爲である。それは、限りもなく煩しい勞働の連續で、何かの點で婦人の向上發展のために利益するやうなものをミヂンも含んでゐないものだ、と。

ロシアでは、從來の婦人の生活のやうに、婦人を家庭に閉ぢこめて育兒と臺所仕事に沒頭させておくことは社會的な罪惡だとみる。そして共同の炊事所、共同洗濯所共同託兒など云つた風に、いろいろな公共の設備を十分にして、婦人の生活に餘裕を與へるやうにして、その餘裕を利用して、婦人も又その人の才能にふさはしい方面で、社會的仕事を分擔して働くやうに努めてゐる。

餘裕の出來た婦人の心は、又、育兒のこと、衞生のこと、或ひは一般社會問題について、政治について、乃至は娛樂藝術等云つた方面のことにも自由に自分を樂しませ研究させ、學ばせるやうにだん〳〵努めて來るので、從つて婦人も一個の社會人としての相當の教養をいつのまにか修得する樣になる。

新ロシアの婦人の生活に於て初めて私たちは解放された婦人の地位をみる事が出來る。(わかくさ)

× × ×

革命十週年の露西亞と世界

茂森唯士

一

露西亞革命の十週年が來た。これは更めて云ふまでもなく有史以來始めてプロレタリアートの政權が、十年間我々の世界に維持されて來たことである。單に維持されて來たばかりではなくて、過去十年に亘る不斷の鬪爭と建設によつて、既に搖ぎのない深い根を張つて來たことである。そしてこれは資本主義の世界が激化しゆく階級的對立と鬪爭を單に對內的に內包してゐるに留らず、對外的に、國際的にも實在せしめてゐることを意味する。

この大きな事實は、今日の國際生活を決定する誠に重大な動因である。この事實から英露の斷交が生れ、歐洲反ソヴェート聯盟の機運がつくられ、支那の革命運動が深刻化し、全世界の階級鬪爭が不斷に刺戟され、資本主義社會の不均衡が愈々其度を增し、全世界の反動的勢力が其ヒステリカルな策動を高める。これは資本主義國家相互間の對立とは全くその本質を異にし、遙かに深刻であり、持續的である。元來云つてみれば資本主義國家相互間には本質的な對立鬪爭は存しない。之は資本主義國內における個々のブルジュア政黨間に、それが無いと、全く同一の理由に基くものである。もしそこに何等かの對立があるとすれば、いはゞ競爭とも稱すべき程度のものである。其證據には何か彼等の階級的基礎を脅かされるような事件に遭逢した時、彼等の間の對立が消えて直ちに協調が結ばれるのをみても判る。唯階級的對立鬪爭のみは本質的である。そして露國と資本主義世界におけるこの關係

は全世界が社會主義化されるか、乃至はロシヤが資本主義化されるかしない限り、止む時はないのである。

而も現在の事態において、どちらも當分望み得ないとすれば、今後時と共に深化してゆくばかりである。

二

プロレタリアの露西亞と、ブルジユアジーの世界とがその階級的本質のまゝに、何等の被物をまとうことなく、直ちに相手の咽喉を扼するため闘爭したのは、一九一八年から二十年の末迄滿三年間に亙つた。これは露西亞に於ては、獨逸洪牙利、伊太利、英國等を直接の對象とする世界革命プログラムの遂行時代であり、資本主義諸國にとつては、コルチヤクコルニロフ、デニキン、ウランゲル、セメヨノフ等の反動軍閥をあやつつて、武力干渉と經濟封鎖とにより、プロレタリア國家を撃殺しやうとした時代である。

だがその何れも不成功に終つた。帝國主義大戰によつて沒落期に入つたことを證據立てたとはいへ、世界資本主義の反動的に凝固した勢力は、一九二〇年代の世界における無產階級の結成された力よりも尙强かつた。と共に、資本主義列强の協同戰線によつて、一氣に揉み潰し得ると信じられた露西亞プロレタリア革命の根底は、彼等の豫期に反して頗る强固であり深大であつた。

こゝから二つの世界の新たなる關係が展開した。露國と世界との經濟的提携がそれである。「露國が世界を必要としてゐるやうに、世界も亦露國を必要としてゐる」と當時レーニンが言つたのはこの關係を指してゐる。エストニヤ、ラトウイヤ、ペルシヤ、英國、瑞典、獨逸、佛蘭西、日本とそれ〴〵新國交協定がなされた。これは、横に相對立する二つの階級世界の、對立のまゝの協調である。對立のまゝの協調！　言葉が矛盾してゐるのである。對立した二つの世界は、各々相手を倒すに必要な自己の力を增大せしむるため、握手して、互に相手方から自己に必要な利益を引き出さねばならなかつた。一九二一年以來露國と資本主義世界とが、國際交換過程に入り、經濟的連繫を結び、その關係が時と共に發展して來てゐるのは、全くそこに根ざすものである。早い話が歐州諸國はその經濟生活を調節して國力を强めるため、露國の穀類と木材と石油を必要とし、且つ一億四千萬の人口を包藏する露西亞の大消費市場を首つたけ必要とした。又一方露國は國内の農民と勞働者とを鞏固に提携せしめて、國家産業を社會

主義化するためには、資本主義國の資本と技術とを利用する事が必要であつた。そしてこれは既に或程度まで具體化されて來てゐるのである。現在の獨逸、日本、米國、英國、伊太利、墺太利諸國の對露關係は之を裏書してゐる。

三

これは露國と資本主義諸國との經濟的相互依存關係であるには違ひないが、然しこの二つの世界のよつて現れてゐる本質殊にその相互依存關係を設定するための究極目的を考へてみる時、それが世の常の協調でなくて、形を變へた階級鬪爭であることが分る。武器を取つて戰ふのではないが、それよりもつと複雜化された形式のプロレタリアートとブルジュアジーの國家的鬪爭であることが分る。その本質の偶々暴露されたものには現在の英露關係がある。即ちこの二つの異質の國家は、經濟的提携の分野で相當の成果を收めつゝあるにも拘らず、その本質的な敵對關係の鋭鋒を蔽ふに由なく、去る五月斷交したではないか。そして反動英國を主謀とするポーランド、フインランド、エストニヤ、ルーマニヤ、フランス等を交へた反ソヴエートブロツク結成の機運がヨーロツパの天地に熟しつゝあるではないか。

四

目を轉じて東洋を見る。土耳古、波斯、亞富汗、印度、支那等に對するソヴエート露國の關係は、歐洲資本主義列强に對するそれとは多くの相違點を見出す。それは單に經濟的にばかりではなくて、政治的にもより相互依存的であり、從つてその親善關係はより本質的である。

土耳古、波斯、亞富汗の諸國との間に、露國は單に國交協定、通商協定のみならず、中立保障條約をも締結し、印度並に支那の民族との間に根深い親愛關係を布いてゐる。これはプロレタリア國としての露國と、帝國主義抑壓下の植民國半植民國との相互的共通關係に因由するものであることは、敢ていふまでもない。

この如きが革命十週年を迎へたソヴエート露國の世界に於ける現位置である。

岐阜縣笠松共同炊事組合訪問記

野澤隆一郎

△

中産階級以下の數千萬人の主婦が、三百六十五日を毎日毎日どんな風に暮して居るだらうか。私は、其等の人達の貧しい暮し向きのことには暫く觸れない。其の日々の勞働だけを取り上げて見やう。

其は恐ろしく單調で無味乾燥な勞働の連續以外の何物でもない。多くの主婦は仕事の合間に、ヒョッと或は貧の辛さに出遇ふて深い「つまらなさ」や「退屈」を感ずることはあつても、其が何所から來るかを考へない。また其れを考へ進める力を持たせられてゐない。そして、單調な炊事、育兒、洗濯等の勞働――原始的方法による勞働に、明けても暮れても從事してゐる。身體を使い氣を使い、疲れた彼女たちには、讀書等は愚か、内職に費すべき時間さへもかつかつなのである

△

彼の女達が幸福になるためには、自分達の運命を見る眼を與へてやらねば駄目だ。私共が彼女達から屢々聞く。

「あゝつまらない！」

といふ深い嘆息の根原が、何所から來るかを見せてやらねばならない。

彼女等に無智といふ眼かくしを何時までもしておかうと骨折つてゐるものは何でせうか。

此の答へは我國の資本主義といふ社會組織の解剖によつて解決されます。私は今玆で多く其れに觸れてゐることは出來ないが、一口に云ふと、私共全人民の生活が少數の、大資本

家大實業家の利害のために引き廻されてゐるといふことです政府や既成政黨は勿論のこと、銀行、交通事業、貿易(關稅)商業、別の方面ではあらゆる敎育と宣傳、學校制度、新聞、雜誌等が究極に於て資本家金持本位にやられてゐ、その存續維持のために營まれてゐるといふことです。

　こうした事が、何故婦人達の解放の邪魔をしてゐるかといふことを疑はれる方もあると思ひます。然し、科學の指示する眞理の光で、主婦や婦人が、此れをハツキリ見て取つた時彼女等は始めて――人類史上始めて――婦人解放の進むべき見當が付くことゝ思ひます。

△

　少し問題が外れたらしい。共同炊事組合訪問のことに歸りませう。私は其所を訪問する前に、以上述べたやうな資本主義制度の中で經營されてゐる笠松の共同炊事組合は如何なる動機で設立されたか、婦人にヒマを與へたか、與へたとすればその閑暇は何のために使はれてゐるか。及び炊事の技術上の調査其他を見たいといふ希望で訪問しました。

△

　笠松町は岐阜驛前から小さい箱電車に乘換へて二十分許り行つた所にある機織(はたおり)の町であります。

　大正九年三月に始めた。當時一ノ宮町に共同炊事をしてゐた(今はなし)のに習つて、笠松といふ工場町の食事を整一せしめやうといふ動機で始められた。即ち機織女工の食事の共同炊事であり、その目的が機業主の算盤ヅクで出來上つたことは、まづ目的動機に於て私の探求してゐたものは違つてゐました。

　昭和二年三月の調査では、組合員六十五名の内織物業其他工場は五十名であつた。

　一食平均八錢で出來る。米(改良平麥混り)は一食一合六勺餘(一日五合)。朝夕は味噌汁。晝は煮付け。工女の食物と主人の食物と違ふ所が多いと云ふことでありました。

△

　次に記すのは九月二十六日――十月二日までの獻立豫定表である。農村の常食として、その營養價、カロリー量など果してどんなものであらうか。

朝	晝	夕
味噌汁	煮附 牛蒡 角麩	味噌汁
白菜		れぎ

同　茄子　同　ねぎ　同　里芋　同　南瓜　同　白菜　同　茄子

同　里芋　昆布　同　蓮根　[illegible]　三角揚　煮附　里芋　同　鶏肉　こんにゃく　玉ねぎ

同　里芋　同　南瓜　同　白菜　同　茄子　同　ねぎ　煮附　うづら豆

これを今少し委しい算出に依つて見ると、混合米一石當り

金二八圓一一錢六厘強

區別		
主食	一食ニ付キ	四錢九厘一毛〇〇
副食	同	二錢八厘四毛五七
準備基金	同	二厘四毛四三
計		八錢　〇　〇

總收入高一千四百九十四圓〇八錢也

内譯食料實費金一千四百四十八圓四十七錢

準備基金金　〇　四十五圓六十一錢

なほ、この共同炊事場を利用してゐる者六十五名の職業別は次のやうである。

織物業	四四名	洋物商	一名
織物整理業	三〃	藝妓置屋	一〃
味噌たまり商	三〃	肥料商	一〃
製粉業	一〃	酒商	一〃
菓子商	一〃	機械商	一〃
捺染商	一〃	度量衡商	一〃
呉服商	一〃	製糸業	一〃
煉炭商	一〃	洗張業	一〃
會社員	一〃	無職者	一〃

△

本誌前號に村山重忠氏の紹介された「長崎縣の鶴海購買組合」と同じく笠松も、その設立の動機に近代的意味を充分認めることは出來ない。然し現にロシアに於て共同炊事所（共同製パン）、託兒所、共同洗濯所等が協同組合の手で經營されてゐるとの事であるが、近い將來に我が國にもかゝる運動が起らなければならない。其の際に於ける參考――殊に經營上の事柄については參考になる點が多いと思ひます。然し共同炊事の實際に關しては、むしろ大製糸工場、大紡績工場の炊事、或は軍隊の炊事設備方法などが、より多く參考となりはすまいか。此を新社會の中に新見地のもとに設立するのでな

ければならないと思ひます。

△

共同炊事場の如き設備が資本主義制度下に於けると將來の新社會組織下に於けるとでは、その意味に異るものがあることを忘れてはならない。その最も重要な點は、丁度協同組合一點張りで社會の改造が出來るといふ謬想と同じく、共同炊事とか、託兒所とかいふ、箇々別々の施設が多く集りさへすれば資本主義の最根幹の改造が、獨りで出來、從つて婦人の解放が來ると思ふことは間違いであります。恰も救世軍の如き、資本主義組織に就いて正しい科學的認識を持たない仕事からは決して『世が救へ』ないと同じであります。

たゞ我々は、將來の準備をする意味に於て、また現在の目前の差し迫つた緊急の利益のために、殊に社會的に行動する訓練のために、こうした運動を、益々盛にしなければならないと思ひます。

△

最後に問題となることは、共同炊事を或る地域に實行したとして、そこに生ずる主婦の閑暇を何に利用するかといふことであります。此は農村に共同耕作組合が實行された場合と同じです。

私共の生活がだん／＼苦しくなつて行きつゝある現經濟界にあつては、かゝる閑暇が教養等に費されるよりも稼ぐ方に費されるに違ひない。否主婦の閑暇なき現在に於てさへ、農村に於て都會に於て、中小の農夫勞働者俸給生活者の主婦は出來るだけセツセと稼がなければならない事情に差迫つてゐるではありませんか。

共所で共同炊事なり共同耕作なりを現在直ちに實行するには、同時に他の生產業を興へなければならないことであります。陰慘な響きを持つ手內職を副業に、副業を更に一ツの生產部門に發展せしめる努力がなされねばならぬ。

玆でも云はれるのは、中小產者の解放は現在の組織のもとでは徹底的にうまく行かないと云ふことであります。共同炊事、育兒所が單獨でポツツリと出來るのでなく、他の事業なり施設なりが同時に同一方針、並列的に行はれるのでなければ効果が薄いのです。他の社會解放運動と全く別個では婦人解放は出來ないのであります。二、一一、六）

古今東西美術史に映ゆる名品五千點を集む

世界美術全集

美術民衆化の先驅

本全集出でて世界美術の大殿堂は初めて萬人に開け古今の大美術家は地上に立つて大衆に接す。

讀む全集より
見る全集へ！

壹圓の會費で
何時とはなしに家庭美術館が建つ！

普及本
本綴略裝美本

裝飾本
本綴擬革裝背金
天金最上製函入

實物見本
全國各書店にあり

造本術の最高技術を動員して出版界類例なき廉價本
本書出でて美術書高價の觀念は消失さる。

豫約規定

一、頒布方法　全三十六卷　豫約會員のみに頒ち一部賣りは絶對にせず、
一、四六倍判　精巧なる原色版及び網目寫眞版等約百四十圖。解説約八十頁。
一、裝　幀　甲乙丙の三種
甲　普及本　本綴略裝美本
乙　裝飾本　本綴擬革裝背金天金上製函入
丙　特別裝　プレート帙入
一、申込金　**甲壹圓　乙壹圓五拾錢　丙貳圓**
申込金は最終の會費に充つる故、第一回會費は別に御拂込を乞ふ。一時拂は申込金を要せず。
一、會費　**甲壹圓　乙壹圓五拾錢　丙貳圓**
（中途解約者には申込金返戻せず）
一時拂　甲卅二圓乙四十八圓丙六十四圓。
一、送　料　毎卷拾八錢（東京市内は六錢）
一、拂込方法　申込金及び第一回會費は豫約〆切前に、毎卷會費はその發行十日前に振替御送金を乞ふ。
一、發行期　第一回配本、十一月十日。以下順次月一回以上發行、昭和四年末完結。

東京神田駿河臺下
株式會社
平凡社
電話神田　一六四六番　三六二八番　三四一九番
振替口座東京二九六三九番

歌ふ心

奥榮一

私は歌人ではない。歌人にならうなどとは毛頭思つてゐない。だが、歌は作る。作るといふよりも口吟むと云つた方が適當であるかも知れない。それも、この頃ではほんの時折ではあるが。

　でも考へてみると、私も歌を作り出してから隨分古いものだ。もうかれこれ二十年になる。無論、多作をする方ではない。時には一年に一二首、時にはまるで出來ない年もあつたやうである。それでも永い年月だ。作つた數も相應ある筈だだが、歌のためと云つては一冊の纒つたノートも持たなかつた私は、その大半を、いや殆んど全部を失つてしまつた。忘れてしまつた。四五年前に、せめて、時折活字になつたものでもと思つて少し許り集めてみたが、それすら周章しい生活にまぎれて何處かへ失つてしまつた。

　思ひ出すと惜しいやうな氣もする。だが、どうせ私の歌なんか、名も知らぬ路傍の草だ。人目にも止らずに咲いては消えてゆく。それでいゝんだ。そんな氣もする。さうして私は相變らず、時折あり合せの紙片に書きつけては失ひ、失つては又書きつける。

　そんなわけで、私は歌の學問はおろか、作法、修辭修練、と云つたものにはまるで門外漢だ。かうした私が、歌のことについて何か書く、自分ながら氣恥しい氣がする。だが路傍の草だつて眼を留めてみれば、それ〴〵の風情がないわけではない。心を澄まして聞けば、生活苦の呻きが聞こえないでもない。自然の意志を意志として、せい一ぱいに生きてゆく生

活に彼自身の主張がないと何人が云ひえやう。

私は、そんな積りで勝手氣儘に思ひついた事を書く。草だたかゞ路傍の草だ。勝手に蹂みにぢつて通るがいゝ。

私は一體、歌人の歌といふものを好かない。あの、變に衣冠束帶をつけて斜めに構へてゐるのが嫌だ。我々の住んでゐる世界をすんでゐるまゝに、我々の生活苦を生活苦のまゝに歌はうとしないで、商人が店頭を飾るやうに、古い傳統生活の中から歌になりさうな種を寄せ集めて、人前で見えを切つてゐる作風が氣に入らない。

自分を歌はうとしないで、見物を感心させやうとする成心自然を素直に見やうとしないで、殊更に歌人らしくでつちあげたお上品な箱庭、何事も買手本位の商業主義の世の中だ。さういつてしまへばそれまでだが、もつと素直な、もつと自由な、もつと平俗な、人間の生活に則した歌の世界がなければ嘘だ。

音樂は騒然たる自然音の中から人類の發見した好ましい音階だ。短歌は雜然たる表現形式の中からわれ〳〵の發見した一つの詩形だ。

歪められた人生だ、傷つき易い人間だ。喜びに飢えてゐる人心だ。溜息をつくやうに、歔欷くやうに、口笛を吹くやうに、小跳りするやうに、この歌といふもの靜かな表現形式をえらぶのは間違いであらうか。

凡ゆる藝術は所詮、人間と人間とが結びつかうとする表現形式だ。いや人間ばかりでない。大自然の一木一草、路傍の小石、天上の星、我々の心にふれる一切の萬物と結びつかうとする意慾の現れだ。云ひかへるならば凡ゆる自然の風貌を面語を、我々の中に見出さうとする生活慾の延長ではないか見給へ、親しみに飢えた心は、途上の石ころにさへ話したい心になるではないか。悲しみに沈んだ心は、野末の枯木にさへ訴へる心になるではないか。悦びに躍る心は、雨降る太陽の光りにさへ手を差延べるではないか。

短歌は我々日本人が見出した、最も端的な、生活に即した原始的な詩形の一つだ。凡ゆる藝術がさうでなければならないが、殊にこの端的な表現形式をもつた原始藝術は、生活の動くがまゝに、自然の中に、人生の中に自己を見出し、自己を生かしてゆくために創造されたものである。

歌ふ心は、生きる心だ。生かす心だ。命を吹きこむ心だ。人間は働く。錢を儲ける。學問を勉强する。が、現在のやうな社會狀態の下ではその大多數は、殆んど、食つてゆくため、若しくは、その便宜のためだ。食ふために生きてゐるといはれたつて一言もないではないか。歌ふ心は、それ自身生きる心だ。さう考へて來ると、食ふために生きることを餘儀なくされてゐる現在のやうな世の中に於ては、短歌は生きるために食ひ、進んで生きるために、生きる世界への一つの命綱だ。歪められ、餘儀なくされたわれ〳〵の日常生活に、よしそれは小さなものでも砂金のやうに輝く生命の光だ。

啄木は、彼自ら呼んでその短歌を「悲しき玩具」と云つた一體比喩なんてものは、どんな適切なものでも 半分の眞理しかないものだ。成程その晩年に於て、一個の社會革命家としての信條を抱いてゐた啄木にとつては、その歌は「悲しき玩具」であつたに違いない。然し彼のこの晩年の信條は、彼自ら玩具と呼ぶものゝ中に立派に生きてゐるではないか。さうして切々として今尚萬人の胸に、その信條を生かしてゐるではないか。いや、啄木の、短く、さうして永いその生涯は

この玩具の中に何よりもよく生きてゐるではないか。玩具、玩具、玩具は果して無用のものであらうか。見給へ、子供は凧をあげる。獨樂を廻はす。人形を弄ぶ。だが、子供の生命はその弄ぶ凧と、獨樂と、人形と共に生き、成長し、活躍してゐる。子供の生命は何よりもよくこの玩具の中に生きてゐるではないか。

歌は玩具であるか、ないか、この場合その詮索はどうでもいゝが、假りに啄木の詩的表現に從ふならば、歌ふ心は、子供が凧をあげ、人形を弄ぶやうに、その中に生き、成長し、飛躍してゐるのだ。重ねていふ。歌ふ心は生きる心だ。

歪んだ心は歪んだまゝに、跛の心は跛のまゝに、おでこはおでこのまゝに、投げ出して歌ふのが本當だ。いゝ惡いは、歌ふ心、生きる心から見れば末だ。その歌の價値を定めるものは第三者だ。時だ。

生きる心なくして歌ふ事は、媚を賣る賣女の裝ひだ。その心は死んでゐる。死物にどんな巧みな裝ひをしたつて死物は死物だ。成長も、交響も、親愛も、何にもあり得ない。

西行にとつては、彼の一首の歌がもつ心境を、賴朝から貫

つた銀の猫よりも、遙かに尊重したであらう。いや、征夷大將軍その人よりも尊重したに違いない。良寛にあつては、紫衣の大僧正の衣階よりも、破鉢を叩いて歌ふ心に、遙かに安住の世界を見出したであらう。磯丸に於ては、逃げて行つた最愛の妻よりも、その素朴な口吟に、より多く生きる事の光明を感じたであらう。

かう考へて來ると、歌ふ心は、求道の心だ。甦生の行だ。ありのまゝの姿で、佛心を見やうとする心だ。ありのまゝの世界に、佛性を見やうとする行だ。

歪んだ世の中だ。傷つけられた心だ。食ふためにおはれてゐる生活だ。食ふために、僞らなければならない世の中だ。眞純に、素朴に、ありのまゝに、素はだかで生きてゆく、歌ふ心の世界は、何とかして失ひたくないものだ。

―うた―

與謝野晶子

その日より波いくかへりかへりけん過去も未來も知りがたきかな
み空よりわれを認めし星おちぬ人の戀ほどためらはずして

若山牧水

はだらかに雪の見ゆるは檜の森の茂れる山に降れる故にぞ
こがらしの凪ぎぬるあとを夕燒す溪に落葉のうかび流れて

土岐善麿

こゝろよく腹のはれるに、坂路の、まへの車をつと、押してやりぬ
大きなる部屋に働ける、寂しさよ、戸外の、日ぐれの、雨を知らざりし

釋超空

霜月の日よりなこみの　あまりにも寂けき空の　したおぼゝしも
あまつ日の　み冬來向ふ色さびし。わが大君はものを思へり

――改造社版「自家選集」より――

賣淫の二形態

富士辰馬

第一の形態

社會の生活が、複雜になつて來ると、企業家もうまいことを考へ出すものである。それは勞賃や俸給を拂はずに、いや、拂ふ眞似をして人を働かせる方法である。この不景氣に、この資金難に、これは何とうまい方法である。

企業家に取つて天來の福音であるこの方法は、然らばどんな方法であるか。それは副業として賣淫を默認する方法である。だが、この方法は既に賣淫である以上、今日の諸條件に際して、人類の兩性に適用される方法ではない。此處に賣淫に依る勞賃の不拂ひ法若しくは勞賃の引下げ法——が有する缺點が隱れてゐる此處に企業家に取つての不便がある。そしてこの缺點と不便とはこの方法が單に一方の性に限られるといふことに止まらない。これが適用の範圍は女性のうちでも客商賣に從事するものに限られてゐる。客商賣に從事する婦人とは、主としてカフエーや食堂の女給と近世式な商店の女店員である。問題の方法は、即ち、斯かる範圍の女性に最も多く適用されるのである。

職業婦人としての女給の生活

何故に女給となつたか

この問題は可なり興味ある問題であるが、東京大阪の二大都市でカードに自ら記載しただけでの表面の事實より以上深く進んで知る事が出來ないのは殘念であるが、二千九百六十二人に就いて見るに兩大都市を通じて最も多いのは、家計補助の爲めである。東京は全數の三割三分六厘であり大阪は二割八分二厘である。

その次の動機は收入多き爲め即ち貯金が出來る爲めと云ふのである。之は東京で一割餘を占めて居り、大阪では一割三分四厘を占めてゐる。之れ何人も均しく望む處であらうが、只だ單に收入多しと云ふだけならば女給以外に猶ほそれ以上の收入ある職業が無いでもないが、それ等には其の他の困難な事情が伴ふてゐるのである。例へば技術を必要とするとか、學術修業の資格を要するとか、勞働が激しいとか樣々の理由がある。然るに女給生活は比較的樂に、或は語弊があるかも知れないが遊び半分に遊蕩的氣分で生活が出來ると云ふが如き他の附帶事情があつて收入が多いと云ふ事に於て女給なる職業が選ばれるであらう。その證據には他の就職理由中に勞働を嫌ひてと云ふ一項がある。それには東京で一分四厘、大阪で三分二厘の割合である。

又他の就職理由中には都にあこがれてと云ふのが東京で三厘、大阪で六厘の割合を示してゐる。無

カフエーや商店の經營者はそこに傭はれる女性に對して賣淫の內職を默認すれば、殆ど勞賃を拂はずに女性の勞働を利用し得るのである。勞賃を拂ふとしても、その額はホンの少しで足りるのである。給料といふ名義を示し得る程度で足りるのである。

カフエーや商店の主人は、一定數の女性を雇傭する際に前以て問題の內職から得る收入を算定して、名義上の給金を契約するのである。この契約に方つて、最も破廉恥な企業家になると、暗に『これこれの內職がある。少しうまく立廻りさへすれば、これ〳〵の收入がある。だから給金はこれだけでも實際の收入はこんな額になる』とリアリスチツクな勞銀を指摘して、問題の副業を薦めるかも知れない

一體、カフエーや食堂が、滋雨後の松茸と同樣に、矢鱈に殖えるのは、一と口に言へば、不景氣の一反映である。狂暴な資本の集積と小生產の頻々たる沒落によつて婦人は生產への進出を拒まれる。單に進出を拒まれるばかりでなく、沒落する小生產から街頭へ掃き出されるのである。

他方に、どんなに不景氣でも人間の食慾と色慾は人間のからだから天の一方に飛去るものではない。若しもこれが飛去つたとしたら、人類の消滅である。利口者はそこを覗つて、小金を集めてカフエーや食堂を開業する。此新たなカフエーや食堂へは小企業の沒落によつてルンペンプロ化した女性が群をなして集まつて行く。

一般に言ふと、ルンペンプ

聊の爲めと云ふのが東京で七厘、大阪で一分ほどの割合を示してゐる。又理由不明又は故意に之を示さなかつた者が兩都市で二百五十一人もあるから、その中には表面に書き表はす事を避けた者が可なりあるであらう。

第三位に多數を占めてゐる動機は家庭の事情の爲めである。東京では九分二厘、大阪では九分七厘を占めてゐる。之は單に家庭の事情とだけで其の內容は充分に知る事が出來ないが、中には悲劇的な動機をも亦幾分含んでゐると見られるものもあらう。此の悲劇的と云ふ意味は必ずしもドラマチックな場面を想像しないまでも、例へば離婚の爲めと云ふ理由が東京と大阪とで各七厘宛の割合を占めてゐる又男に欺されてと云ふのがあり、失戀の爲めと云ふのがある丙午生れを悲觀してと云ふ捨鉢的なのもある。それから變つたものでは東京では震災の爲めと云ふのが四分九厘、好奇心よりと云ふのが兩都市に百五十八人卽ち六分二厘もあると云ふ有樣である。

其の中で稍々注目に値するのは自治の爲めと云ふのが東京に六十二人、大阪に七十五人卽ち全數の五分四厘が或る意味に於て自己解放、經濟の獨立を目的として就職してゐると云ふ事である。が併し他方に於ては因襲的な動機例へば嫁入仕度の爲めと云ふのが三分九厘、

人に勸められてと云ふのが一分一厘、

他に職なき爲めが五分九厘等がある。

女給一日の生活

大抵朝九時か十時に起床し（中には六時七時の起床もあるが少數である）、掃除をして、食器の手入れ、簡單な朝食等を濟まして休憩をするか、又は裁縫をする。之は夜の商賣に從事してゐる關係上止むを得ない事である。それから手紙書、雜談、雜誌讀みなどをして

ロ化した女性は明確な階級性を有つてゐない。彼女達の心は風鈴のやうに、小さな刺戟にあつても、動搖する。彼女達は、どんな階級の人でも好い少しでも金を多く出す人に從ふのである。そこで彼女達に多く與へ得る者は誰であるか、それは多く搾取する者である。この關係に於て彼女達はイデオロギイ乞食のイデオロギイに似てゐる。

話が理屈に逸れたが、まあそんなものである。

だから女性や女店員が風俗を惡化することに參加するからと言つて、頭から權力によつてこの參加者を掃蕩することは不能である。これを掃蕩するには第一に中小の產業を回復しなければならない。そして彼女達をルンペンプロから純プロに返さなければならない。カフエーや食堂から事務所や工場へ取戻さなければならない。而も、彼女達を取戻さうとする事務所や工場は彼女達がカフエーや食堂で取得してゐた全收と同額を拂ひ得るものでなければならない更に進んでこの全收入を超過する額でなければならない。この全收入は、前述の如く、名義上の給金と副業に依る收入とを合算したものである。

今や、銀座や丸の内には、精液の洪水が滔々と流れてゐる。この洪水に對する堤防は警察のサーベルを以て築き得るものではない。如何にこれを築かうとしても、副業の賣淫は漸次に本業の賣淫に轉化する傾向を有つてゐる。

第二の形態

以上は賣淫の一形態である

女給は各自交代に入浴する。そして愈々夜の支度に掛つてお化粧裝身に身をやつして顧客を待つのであるが夕景は概して客が少ないので隙である。九時十時頃から客が次第に殖えて來て最も繁忙を極めその間に腕によりをかけて顧客に媚を賣るのである。之れは多くの女給が固定給なき爲めに止むを得ないとしても、固定給があつてもチツプの誘惑がある爲めに媚を賣る事はやむをえぬ様になつてゐる

今女給の起床時間と就寢時間を見るに、東京では九時起床が三割七分六厘、大阪が二割三分七厘である。然るに十時起床になると東京は二割三分五厘であるに比して大阪は四割一厘である。十一時起床は東京では僅かに四分八厘であるに比して大阪では一割五分七厘である。

次に就寢時間は、東京では午前一時が最も多く、全數の四割三分を占め大阪では午前二時で三割九分七厘を占めてゐる。此の時間には東京では二割二分七厘であり、午前一時の大阪は二割八分六厘となつてゐる。夜の十二時就寢は東京では二割二分、大阪では一割一分四厘である。次に午前三時は東京では四分、大阪では一割四分六厘。夜の十二時を過ぎてくる客は恐らく飲食の目的でくるのではないであらう。外の目的即ち享樂を求めてくる筋合の者であらうと考へられる。

女給の收入

女給には概して固定給がない。東京で固定給のある女給は全般の三分の一以下で千六百人中で五百以下であり、大阪ではそれより一層少く全數の三割四分六厘餘である。從つて大多數の女給は、單にチツプやその他の貰ひが其の全收入となつてゐるわけである。從つて彼等が顧客に媚を賣るのは止むを得ざる次第であり、事實そこに單なる顧客給仕關係以外に何等かの關係が成り立つやうになるので

だがこの形態と並んで他の形態が存在する。他の形態とは如何なるものであるか。それは『輿論』の製造所である新聞に働いてゐる記者の中に發見される。本來の意味に於ける記者とは、己れの時代から取得した知識と經驗を己れの頭を以て分折して一定の意見を創設し、この創設された意見を、どんな力にも曲げられずに、己れの時代に返却する公論家である。

だがそのやうな公論家を今日の新聞に求めることは極めて困難である。

今や小企業の沒落は輿論の製造所をも捉へずに置かないそして小經營の新聞は續々と死前の痛ましい痙攣に襲はれつゝある。斯かる新聞の主人達はカフエーや食堂の經營者と等しく、最も低い俸給記者の勞働を利用する方法を考へてゐる。さらばその方法は何であるか。それは、ルンペンプロの女性に於けると同じやうな副業の賣淫である。

だが本文の筆者は曩にこの副業が女性に限られてゐることの缺點を指摘したから、記者の副業を賣淫と名づけることは前言と矛盾するやうに見えるであらう。けれども決して矛盾ではない。記者の賣淫も、その本質に於て、少しも女性の賣淫と異なるものではない。兩者の異る點は取引の對象が、女性の場合には軟かき肉體であるのに、記者の場合には、それが所論や記事であることに存する。

副業の賣淫に從事する記者は、主人との豫めなる諒解に依つて、盛んに相手方の意見や希望やを(二五頁ニツヾク)

ある。固定給と云ふても決して、彼女等の生計を支持するに足りない極めて少額のもので、月給十圓以下の者が東京で二百四人、大阪では十八人位であり、月給三圓以下の者は東京で百四十四人大阪では二人、同二十圓以下の者は東京で九十五人、大阪で三十五人、三十圓以下の者は東京で八十人、大阪で五十二人、四十圓以下の者は兩都市併せて三十二人、五十圓以下の者は兩都市で十六人となつてゐる。之は總數二千七百八十五人中の割合である。之を以ても固定給なるものが到底彼等の生計の補助にならぬ事は明かである。

次に女給ッチップを見るに月收三十圓以下二十圓以上の者が余數の二割二分七厘あつて、其中東京では二割四分六厘大阪では二割二分一厘となつてゐる、その次位は三十圓以上四十圓以下で、東京では一割八分五厘、大阪では一割八分六厘の割合で大阪の女給の方が此の點では多いが、四十圓以上五十圓の收入ある女給の數は東京で一割六分四厘、大阪で一割六分となつてゐるから玆では東京の方が多額を受くる者が多いわけである五十圓以上六十圓以下では東京の九分二厘に比して大阪では一割一分一厘であるから大阪の方が多額である。其の次に十圓以上二十圓以下は東京で一割一分三厘、大阪で一割九分である。其他の收入者は何れも六分以下であつて、大體に於て大阪の方がチップを多額に拂つてゐる事になるのである。

毎月第二日曜夕六時より
「婦人運動」の讀者を中心
にした懇談會を開きます。
於職業婦人社

「不如歸」座談會を讀む

◇堺　眞　柄◇

今、丁度、婦人公論十一月號の『不如歸座談會』を讀んでいた所です。

先日、『婦人運動』へ何かとのお話でしたので、私も何かと氣をつけていたのでしたが、どうも格好なのが思ひ當らずに、たうとう今日になつてしまひました。尤も、下手にしろ上手にしろ、どんなものでも、何かの中には入るのでせうから、『不如歸座談會』を讀み終つた折柄、それについて、少しお辨りさせていただきませうか。

ずい分有名な『不如歸』ですが、私は一昨日まで讀んだ事がなかつたのです。活動でみた事や、次席のかけ合ひ話しを聞いたことや、アラ筋を聞いた事やはあつたのでしたが、一昨日配本された改造の文學全集の蘆花篇で、初めて讀んだのです。そして、京見物に連れて出かけた父親の心持、逗子から伯母に連れられて歸へつて來て、初めて離緣を知つた浪子の心持、佐世保の病院へ、浪子から小包の來た時武男が男泣きに泣いた心持、『もう、婦人などに――生れはしませんよ。』といふ浪子の心持。……などに涙が出相になりましたが、筋は單純ですし、一生懸命にあこがれる程ではないなあと思ひつゝ終りまで讀ませた所、眞につまらせて泣かせ樣とする所は、書いた方の努力が思はれました。武雄もハガいいし浪子ゝ物足りませんものね。たゞ、姑や繼母が、きはめつけの惡人でないのが、愉快でした。あんな位の意地惡るや、ヒガミや個性やは、誰にでもあるでせうから。

×××××

『座談會』の中。

金子しげり氏が、七歳の時に『不如歸』を讀んだとか、餘り早やすぎるので感服の餘り、惡るい事をフト思ひました。金子女史の公然のお年から勘定すれば、七歳頃になるんぢやないかといふこと。

家の近所の子供が『捕へるなら、捕へて見よー チャンチャンチャチャチャチャンチャンチャチャチャン』と活動の役者の聲色をやつてる一方、朝早くなど『ハタ、タコ、コマ』と復習をしているのをきいて、トテモ不思議な不釣合な感じをいだく事があります。こんな事も實在する世の中ですから、金子女史が、『不如歸』片手に鼻をたらした所で、アキれる程の事でもないかも知れないのですけど、餘りの早熟ぶりに、……………

若杉鳥子氏が、とかく、『プロレタリヤ出身の『プロレタリヤ文學の』武男は社會運動中に『偶像』だとか、おつしやるので少々くすぐつたくなりました。千々岩もプロレタリヤにさせられては、フンガイするんぢやありませんかしら。『武雄が社會運動に入つたでせう……』には、山川さんが、アツサリおつしやいましたね。『サア、せいぜいの所、人道主義者でせうね。財產を捨てやうか、捨てまいかといふ……』ですつて。淺薄をふみにじつたツウカイさが胸に込み上げました。流石――流石といふだけ、おこがましいのですけど――山川さんだなあと。これこそ、感服してしまひました。

皆さん、こゝでお終ひになつていたら、私も喜んでいるし、始末もいゝんですけど、若

杉氏は續いて『武者小路さんの新らしい村にゆくかも知れませんわ、ほゝゝ』と云つて居られます。

これと同じ様な事が、も一つ。

山田氏が戰爭のことがよく書いてあると云ひなさつたら、山川さん、『やはりあの頃なら、是非書く所でせう。主人公は、あの頃の職業の中で最も人氣のある軍人でせう。場面もまたそれに釣合つた日清戰爭のチャンチャンバラ〳〵がはいらなければならないでせうね。』と皮肉を言はれたら、それを又山田氏『チャンチャンバラ〳〵も非常に要領よく書いてありますわね。』とおつしやいましたつけ。

この座談會は、山川さんにとつて、いかに御難であつたか、讀んだゝけでお氣の毒に思ひました。

吉屋氏は『私貴方のお家(山田氏)へはお嫁さんを、お世話しないわ』とおつしやつてゐるがこの時、山田氏に『だから、年とつた者の氣持ちが分らない様な貴方の所へは、おむこさんを世話しないんですよ』と云つて欲しかつたと思ひました。意地惡るでなしに。

『座談會』の記事の眞中に、會話が切れて棒組になつているので、『不如歸』に對するテーぜでも起草されたのだかと思つたら、岡本かの子氏の出席に代へての長廣舌ではなく長論文でした。一氣に讀んで一氣に忘れました

婦人公論の『不如歸座談會』は、面白からうと期待したゞけに、面白くなかつたと思ひます。山川さんに、陣を張つて鬪ふ様な勇將のいない事が、淋しい原因の一つでせうね、仇役や、にくまれ者が少し横行しなくちや、立役もハヘませんからね。(十月廿六日)

――(三三頁よりつゞく)――

自分の意見や見解の如くに書くのである。從つて斯かる所論や記事は純乎たる賣言葉である。

このやうな賣淫は金のある黨を遊廓としても行はれる。この場合賣淫に依る記者の收入は名義上の俸給を十數倍も超過するであらう。

讀者の眼前に現れる所論は、斯くて各行と各字が臭氣に滿ちた賣淫の結果であるのである。

賣淫を副業とする女性が、己れの商品價を昂めるために、好い着物を着飾る如く、賣淫を副業とする記者も好い洋服を着、安價な政治家のやうに、葉卷を燻らしてゐる新居格民の表現を藉りれば、記者の辯に銀行員のやうな恰好をしてゐる。銀行員のやうに時計やステッキに氣をつける。

以上が賣淫の他の形態である。

これで賣淫の二形態が、粗略にではあるが、論究されたと思ふ。この論究から諸君は何を導出するか。それは諸君の視力に一任する。だが筆者は、一箇の單純な記者として、記者の賣淫を取除かなければ、諸君の前に處女のやうに新鮮な所論と記專の現れないことを肯定しなければならない。而もこの取除けは、讀者の肩にではなくて記者の肩に懸つてゐるといふことを苦しくも自認しなければならないのである。

或る母の記錄より

伊福部敬子

×　×　×

島崎藤村氏の小說「分配」の中に、「昔から子供を育てる精神は、饑じく寒くと說いてゐる」といふ風な言葉を見て、成るほど、心ある人の思ひは皆同じものであるらしいと、感じ入つたことである。島崎氏ほどの方でも、その「ひもじく寒く」とはどうしても遣りとほせない事を嘆じてゐられる風であつたが、私なども、どんなに前からそれを考へながら遣りとほせない自分を恥ぢてゐたかわからない。

どうしても「食べ足りぬ」狀態に子供たちを置くことはむつかしく、「食べ過ぎ」させてしまふ。昨日も今日も明日も、御飯をそんなに美味しさうでなく食べる子供を見ては、又いけなかつた、お間(やつ)をやりすぎた、と思ふのである。けれどもこれを以て直ちに贅澤だとか、餘裕のある生活だとか云ふことは控へて頂きたい。

私共も、若し時間と心に餘裕があつたらば子供の生活を一々秤にかけるほどに關心してゐたいのである。お腹を空かせておいたらば、いやしつぽくなりはしないかなどいふ懸念のない境遇だつたら、遠慮なく子供のお間も制限出來るだらうけれども忙しくて貧乏な私共は、つい在るに從つては與へ、望むに任せて買ひ求めることをしてしまふ。

子供をめぐる衣食住の、衣服までは及ばず、住居には更に及ばず、食べものばかりはせめて不自由させまいといふのが私共の階級の母心であらうが、その結果はどうなつてゆくだらうか。

彼等が屢々胃擴張やジン痲疹などの病氣にかゝる不幸は別にしても、どんな食物に對しても喜びを感ぜず、その味を十分に味ふことを知らない。これは實に大きな不幸ではないだらうか。

私はさう考へてから、これまで不檢束にただ在るにまかせて珍らしいもの美味のものとばかり考へてゐた臺所生活を、新しく規則正しいものにしようと思ひ決めた。そして彼等のために麥飯週間をつくり、數日間の菓子なし日を儲け、更に砂糖なし週間を拵へた。このためには子供は牛乳に砂糖を入れないで飮まなければならず、お間を貰へない日は麥飯の味を十分においしいと思ふ。

こんな事は極めて小さい事には過ぎないけれども、主婦は恒にそれだけ多く臺所生活に關心しなければならない。

私共貧しい親が子供のために、暖かく、美味いものを十分に、與へようとするのも愛する道であるにちがひない。けれども「寒くひもじく」而して恒にかはらざる理想と愛とを抱き、抱かせ、すべての物の味（食物のみに限らず）あらゆる物の恩惠を十分に知らしめる事こそ、より更に深い親の情であると思はれる。

× × ×

遺傳學の權威メンデルの教へる所によれば、白き豌豆と黑き豌豆との結合より成る子豌豆四つの中、白き豌豆は三つ、黑き豌豆が一つである。又或場合は、之と反對に白が一つ、黑が三つになる。

而して此の白と黑との親の結合によつて成る子から得られる孫は、白の孫は黑三にして白一、黑の孫は白三にして黑一といふ數になるといふことである。（メンデリズムの唱へられた十年前に讀んだまゝなので、委しい數字は誤記してゐるかもしれない。）

而しこの孫といふのは、子が如何なる配偶によつて成した孫のことであるか。子の選ぶ配偶の如何によつて、この孫の遺傳法數は自ら異つて來ることであらう。

これを人間の場合にあてはめて見る。背低い男が、背高き子を得ようとして背高き女を妻とする。その子供は四人得ても、低いもの三人、高いもの一人。若しくは高いもの三人、低いもの一人、此の何方になるかわからない。そしてその孫は、高いもの四人低いもの十二人、若しくは低いもの四人、高いもの十二人。その何れになるかわからない。而も子の妻

の遺傳が此の數に加へられる時、自然この數字は變つて來る常識として考へるやうに、背低き男が、背高き妻によつて稍高き子を得、更に高き配偶によつて高き孫を得る、このやうに漸進的な光明を認められるものではないといふのである

さうしてみると、遺傳といふものほど、いや人間といふものほどたよりなくかなしいものはないやうに思はれる。

まして遺傳單位の中、丈の高いとか、頭腦の明晰だとか、すべてよいとされてゐるものゝ方が劣性で傳はり惡く、この反對のものが優性で傳はり易いといふのである。

以前山內繁雄博士が、親に似るのも遺傳だし「親に似ぬのも遺傳だ」といはれた言葉を、不思議に思ひ氣障にも思つたが、此の頃漸くにして肯けるやうになつた。彼の持つてゐる樣々の性質が、その何處から來たかをたづねることは出來るけれども、彼と彼女とによつて、どのやうな子を得ようなどとは全く豫期せられないものらしい。

さうすれば自分だけはよい教養をもち、よい教養をもつ配偶を得ても、その生れる子は父母のよい教育もよい教養をも少しもうけついでは來ない。又自分の缺陷を認めてゐる父母が、その子供を同樣の缺陷から救はうとして努力し、遂に救ひ得たとしても、その孫は同じ缺陷をもつて生れて來てしまふ。

私はかう考へて、此の頃全く教育といふものに對してひどく虛無的になり懷疑的になつてしまつた。

或人は私を慰めて、「子供をよく教育しておけば少くとも彼は自分の子供をだけは、よく教育するだらう。此の反對の場合を考へてみたらば教育の必要なことがわかるだらう」と言つてくれた。なるほどユーゼニックス（境遇改善）學といふのはこゝで唱導せられる所以であらうけれども、たゞこれだけに望みをつないでゐなければならぬとすれば、實に淋しい哀しい心持がする。

× × ×

先日來時事新報紙上に、醫學博士夫人戸川秀子氏の「小學教育についての不滿」といふ感想が出てゐた。その人は言ふ――ジプシイの娘や案山子の娘を見るより、筒袖に三尺帶をして本包を首にかけてゆく男子や、丸く中剃したおかつぱさんや前髮下げて小さな桃割れなど結んで、短い着物に前掛をして本包かゝへた村の娘の方がどの位背景にしつくりあふことでせう、落穗を拾ひながらお芋を運びながら彼等は「靑

いみ空の流れ星」などゝ歌ふよりも、「濱のならひで色こそ黑い、味は富山のつるし柿ヨイ〳〵」とうたふ方が野趣滿々、どの位自然でせう、小學校の生徒だからとて、何も傳來の趣味を捨てさせてまで不似合な眞似を敎へるには及ばないと思ひます。下略云々

私は初め之を讀んだ時、私が此の頃敎育雜誌から求められて書いた「展覽會的敎育の不安」といふ文章と同じやうな文字があるので喜ばせられたが、精讀してみて、こんなに違つた考をも、こんなによく似た言葉で言へるものかと、驚き、感心してしまつた。

此の人は自分の趣味ですべてを言つてゐるのである。田舍の小學校の子供が、「歌を忘れたカナリヤは」などと歌ふよりジプシイの樣な洋服を着てスポーツをするよりも、藁草履を穿いて、八木節を歌ひ、山道をかけまはる方がよい、その方が背景にしつくりとあひ、野趣があつて見る目にも興深いといふのである。

此の人の考へでは、都會人である自分たちは人間であつて田舍人は自分たちに興を添へる添景人物でゝもあるらしい。自分たちが田舍へ遊びに行つた時、ハワイヤンの出來そこないみたいな子供ばかりゐるよりも、赤褌の娘が鄙唄をのどかに歌つてゐてくれる方が心持がよい、ブルジョア夫人のかういふ心持が基調をなしてゐるとしか思へない。支那が昔中國を誇り、平安朝の都人が京都をふるさとゝ稱して地方人を侮つたと、同一心理である。

私も亦、地方の文化と相容れぬ文明的敎育を排して、彼らに金の卵と白鳥の夢よりなる童話を聞かせることに反對するものであるが、それは決してこの人のやうな差別感からではない。（此のことは何時か委しく言はせて頂きたい）

往年米價が一時に狂騰してあちこちに米騷動が續起した頃世の識者といはるゝ人たちは、「皆が米を食べるから米不足になり騷動まで起るのだ、貧乏人はよろしく甘藷、馬鈴薯ハト豆などを食べて、金持に安い白米を食べさせるべし」と唱へて、ハト豆飯の炊き方を敎へて歩いたものである。今時そんな事を言ふ人もなく、聞く人もないだらうが、當時は眞面目に考へてゐたやうである。そんな事に憤慨したのは私だけであつたかもしれないが、今日私は戸川秀子氏の敎育說をよんで、この時に似た憤りを禁じ得ないものである。私は愁じいよく似た文字が並べられてあるだけ一層に考へるのである。

身邊二題

奥むめお

十月十日

日本青年館に全國女子青年團の發團式の傍聽に出かけた。キラ〳〵と輝くやうな秋の陽ざしが軟かく天地に充滿したまことに快い秋日和の日である。神宮外苑のあのコンクリート道を獨り會場に向つて歩き乍ら、私はしみ〳〵と「いゝ秋だなあ」と思うた。そして、

「今時分、農家はとり入れで忙しいのぢやなかつたかな」

と、ふつと、こんな心がゝりが頭を掠めて消えた。

途中で、處女團員らしい娘さんが五六人、監督らしい人と一緒にギッシリ自動車に滿乘して疾走してゆくのと二三臺すれ違うた。それを、芝生を挾んで、文化的にひろ〳〵と打開けたあの大道に見出して少しも變に感じなかつたのに、莊重なあの會場で、ずらりとみんな並んで、そして一段高い前方の演壇からノリで張つて作つたやうに謹嚴に構へた山脇房子女史――前處女會中央會長の顏がま正面こちら向きに立つたとき、私は云ひやうのないちぐはぐな氣持で唇を歪めた。

これが全國處女のお母さん？

處女會の會員を、思ふとき、私はそこに、連日の不眠と過勞で眼を赤くしよぼ〳〵させた蠶飼ひの娘や、草刈り娘や、製糸工場の女工や、お裁縫に通ふ娘やの姿を思ひ浮べる。さういふ娘たちを團員とする全國女子青年團の集りにこの貴族的にとり澄した山脇理事長の挨拶は皮肉で、むしろ滑稽でさへあつた。

私は次々に型の如く朗讀される型の如き祝辭を幾つか耳に

聞き流して、あゝして謹聽してゐさうに見える團員たちは今どんなことを思つてゐるだらうか、と思つてみたりした。團員總代がよみあげた答辭も、實に型の如く毀つちあげられた月並みのものであつた。

會員の發言者の中では、われ〳〵の女子青年團のために斯くも高位顯官のかた〳〵が盡力して下さることはまことに感謝に堪えぬ、といつた風の感激に充ちた言葉が多かつた中に次のやうな意見を述べた者があつた。「かうして、色々斡旋して下さる。そしてやがては補助金も出さうと云つて下さるのは喜びに堪えないことではあるが、それだけに女子青年團の前途を心配して下さるのなら、一日も早く女子にも參政權を與へて一人前の地位に引上げるやうにして頂きたい、元來、婦人を如何に引上げてやらうとして下さつても、すでに法律やその他諸制度の上で婦人を全く無視してゐる現在のやうな狀態では、結局その努力は何にもならないと思ふ。就いては理事者の方でも女子の參政權を一日も早く實現するやう極力盡力して頂きたいと思ふのであるが、さういふ用意はないものであらうか』と。

多くの場合婦人參政權！の叫びはざわ〳〵とした笑聲にもみ消されてしまひ勝ちなものである。(この場合も、會場の空氣は不緊張なものであつた。)それだけ、未だ婦人の參政權問題は男子の間でばかりでなく婦人自身の間にも、眞劍な當面の問題としてはとりあげられてゐないといふ事を考へないではゐられないのであつたが、この質問に對する守屋社會局社會部長の答辯は苦しい遁辭と聞かれた部分も尠くはなかつたが、然し親切なものであつた。然し、そんな事よりも私を驚かせたのは、雄辯な一人の反對論者の言葉に對して全會衆が破れるやうな拍手を以て應じたことである。

反對論者の婦人參政權反對意見は――これは使ひやうに依つては、そのまゝ婦人參政權必要理由にもなりさうなものであつたが、結局、『われ〳〵は地方に居てわれ〳〵の日常生活の內に婦人として最も貴重な、母性愛に生きる使命を發揮してゆくやうつとめねばならぬ。女子青年團が、都會の婦人のまねをして婦人參政權を要求するといふ如きは、大變な誤りである』といふのである。

參政權運動とさへ云へば、都會のブルヂョア有識婦人の飛んだりはねたりのお道樂運動であるかのやうに地方の婦人に思ひこませてゐるといふことは、この運動の當事者の考ふべ

き點であらう。婦人の參政權問題については、婦人の生活にとつて最も直接な家庭のこと、物價のこと、衛生のこと、子供の保護教育機關のこと、等々、どんな婦人でも、母として家婦として、考へないではゐられないやうな當面の問題を政治的に解決しやうとする道にまで一般の婦人を誘ひ出さうとするのでなければならぬのに、たゞ抽象的に參政權！參政權！と、議會に押しよせたり、一段高い演壇から大きな聲で叫んだりを繰返すだけでは、將來ます／＼婦人大衆との間のへだたりを大きくするばかりであらうと私は思ふ。

女子青年團が山脇理事長のやうな貴族的な婦人に依つて采配を振られてゐる限り、そして政府筋のお役人に筋書を作つて貰つて右へ向いたり、左へ向いたりさせられてゐる限り、農村や、地方の小都市に住んでゐる娘たちの當面の問題など恐らく、解りつこがないであらうけれど、然し、

一、養蠶家の生産費を國庫に依つて補償しろ（今年のやうに繭値が一貫目四圓、五圓といふやうな甚い安値の場合に受けなければならぬ損失は、即時現金で支拂つて與れ）

二、女工の深夜業をやめろ、寄宿舍の賄ひを改善しろ、寄宿舍から外出するのを自由にしろ、强制的に貯金させたり國許へ送金させたりするのを撤廢しろ

三、家が貧しくつたつて、自由に自分の好きな道の勉强が出來るやうな設備をしろ

等の要求や、その他色々必要な問題を通して婦人大衆を政治的に目ざめさせてゆく手近い道はいくらでもある。

かういふ風な實際の現實問題であつてこそ、忙しい家庭婦人も、貧しい子持の主婦も自分の問題として耳をかたむけやうといふものであらう。

女子青年團員自身にしても、婦人參政權の問題はやがて、わが三千萬の日本婦人の頭の上におちて來る實際問題であるいつ與へられるものとも知れないやうに見えてゐた普通選擧さへ、去年の議會で通過して、さき頃行はれた府縣會議員の選擧の時は、二十五才以上の全ての男子が貧富をとはず選擧場に出かけて行つて一票を投じたのである。參政權問題が決して都會のまん中で跳ね返つてゐる有閑階級婦人のお手玉であつてはならぬのだ。婦人が、その使命として天から與へられたところのもの——母性——をその日常生活の内に最もよく生かすためにもぜひ、婦人は政治上にも一人前の口が利か

れるやうにならなければならないのだ。

それから、有能な處女會指導者と覺しい一人が、雄辯に言葉を進めて、各府縣の方へも女子青年團の發達のために盡力するやう當局から通告を發してほしいといふ希望を出してゐたが、自主的精神を忘れた淺はかな考へにも程があると、思はれた。

元來、發團式からが、かうしておかみの手で筋書通りに進められて團員百五十萬！と號してゐる事それが既に昭和時代の婦人團體としてまことに時代におくれた話であるのに、更にこの上の發展までおかみのお聲がかりに依らうとするのは生れた赤ン坊の生命までも搾り取るやうなものである。

生れ出でた女子青年團を生かすも死なすも、みな、女子團員の心掛一つにある。いつも、婦人として最も切實に求めてゐるものを女子青年團の活動の上に求め、一人々々の力ではどうすることも出來ない問題を團結の力で青年團に依つて實現させる、もし、女子青年團の名を利用して、目上の男子が女子團員の要求に副はないやうな仕事を無理に強いたり、女子團員の願ひをふみにぢつたりしたりする場合があつたら、それこそ勇敢に鬪はなければならぬ。泣寢入は昭和時代の婦人には禁物、女子青年團はあくまで、女子團員の自主的な働きで活動すべきものであり、決してあやつり人形のやうに利用されるものであつてはならぬ。

日本勞農黨を支持して成立した全國婦人同盟では、今度の全國女子青年團の發團式にあたつて次のやうに反對決議文をつきつけた。

大日本女子青年團に突つけた全國婦人同盟の反對決議文

今回文部內務兩省の媒介に依り、諸姉が大日本聯合女子青年團として結成せられたるに對し、わが全國婦人同盟は左の理由に依り絕對反對を表明するものであります。

大日本聯合女子青年團の結成が、

一、現在各所に現れつゝある社會的矛盾に對して全く無批判の態度の下になされたこと、

二、近來澎湃として起ち上つたわが無產階級の婦人運動に對して強いて盲目にさせておかうとする政府當局の欺瞞政策に氣附かれずしてなされたこと、

三、その目標とせられる處の諸案件が社會の必然的な發達を阻止し、否、むしろ反動的結果をさへもち來たす憂へがあること、

以上に依り、わが全國婦人同盟は改めて諸姉の愼重な批判と思慮

とを促し度、茲に右の如く反對を決議するものであります。

十月十一日　　　　全國婦人同盟

大日本聯合女子青年團
全國大會御中

十月二十九日

ある婦人同盟に屬してゐる人と、その反對の立場にある婦人同盟に屬してゐる人と、どちらにも屬してゐない私とが、ある處で落ち合つた。

日和見主義といふ言葉がある。形勢を觀望してゐて、景氣のよくなつた方へ附かうと待ちかまへてゐることである。私がどちらの婦人同盟にも屬してゐない處から、よくいろいろに憶測されてゐるやうであるが、私は無産階級の婦人の運動が現在のやうに三つにも分れて——關東婦人同盟、全國婦人同盟、勞働婦人聯盟——互ひに反對し合ひ、惡口を云ひ合ひ會員の奪ひあひをしてゐるのを見乍らいつも、惜しい力の浪費だと歎いてゐる。この日も私は云つた——「かうして同盟の立場を離れて一緒に合つてみると、みんな有能な無産婦人運動の鬪士だのに、そしてあなた方の圍りにも、私たちの圍りにもそれぞれ幾人かのいゝ婦人が集つてゐるのに、それが

三つにも四つにも分れて競爭し合つてゐる。全く惜しい力の分散だわねえ」と。

それも非常に澤山の仲間があるといふのならば未だしも、どちらを見ても人不足で弱つてゐるのに、而も同じやうな綱領をかゝげて幹部同志で爭つてゐる。地方へ行つて見ると一番よく解る。何故自分がこちらの同盟で、あの人があちらの同盟なのかさつぱり分らないので、結局一緒になつて共同の敵にあたろうでないかといふ事になるのだ。そして、中で少し中央の事情に餘計通じてゐさうな人が小悧口な口を利いていや、あれは中間だ、左翼だ、右翼だと云つた風な常套語を使つて、必要以上に黨中に黨をたてゝ分裂させる。

勿論、それには互ひに抗爭しなければならない必然的な要素もある、といふことは解つてゐるが、何にしても、何十年來その地盤を固めて來た——よし、名稱はどんな風に變つて來ても——ブルヂョア政黨の有力な勢力の前に、やつと去年の五十二議會で有權者になつたばかりの無産階級を根據にして起つた無産政黨が四分五裂して仲間喧嘩をしてゐるのだ。

そして、婦人も又その仲間喧嘩に割つて入つて、敵か、味方か、さもなければどちらにも入つてゐない者は日和見主義者

だといふ。何といふやゝこしい世の中だ。

見渡した處、それ〳〵の婦人同盟にたてこもつてゐる婦人幹部の諸氏は、多く、それらの婦人同盟を支持する政黨の內部で働いてゐる男子の妻か、妹姉か、緣者か、戀人か、何らかの關係に繋りある婦人であるらしい。どちらにも何の繋りをもたぬ婦人にとつては、さし迫つた必要もないのに、賣られもせぬ喧嘩を買つて出るほどのこともないといふ結果になり易いものである。殊に長い間封建的な制度の下で抑へられ虐げられて來た婦人としては、何よりもまづ打ち破つて進まねばならぬ共同の難關が幾らでも足もとにころがつてゐるのに、それを忘れて自分では定見もなしに夫や兄や戀人やの口移しに、ことさらに婦人の共同戰線をぶつこわしにする樣なことを云ひ、又行ふ無責任な人もあるのは惜しい事である。

もつともらしい事を云ひ合つてゐても大局の處、同じ無產階級の解放戰線である以上は進んでことさらに四分五裂させる動因の一分子になるよりも、出來ることならば、何かの機會で、何かの題目の下に、四分五裂した力を一つに打つて一丸とする事が出來るやうな機運を作るために靜かに退いて蔭の努力を積んでゐたい、私たちの願ひはこれより外にないのである。殊に婦人として考るとも、さうした渦中に飛びこんで餘計な神經をいらだたせてゐるひまに、しなければならぬ仕事が幾らでも外にある。長い間、無智と窮乏と隷屬の生活に押しつぶされて來た一般婦人の現狀を思へば、獨りよがりの自慰や獨斷は愼しむべきである。

何れ早かれ、晩かれ、ときは至るであらう。

被抑壓階級解放の戰ひの上では、お山の大將が何より禁物みんな下積みの石に甘んじてなる覺悟が絕對に必要であると信ずるのである。

今こそ生活に打ちひしがれて、貧しく、せわしく、口惜し涙にかき暮れてゐるとしても、一旦時來つて起つときは、誰にもまけないだけの切々たる鬪志をつねに胸に燃やしてゐる婦人が決して少くはないのだ。いや、大衆婦人の今日の生活それ自身が、必然的にさうならなければならぬのだ。それらの世にかくれたる婦人鬪士が怒りに慄へる手さし揚げて憤然と起つとき、その時こそ初めて、世をも動かすやうな大きな力が「汝の名は弱い者」ときめられてゐた婦人の間にも湧いて出るであらう。

お詫びとお禮とお誘ひ

さわやかな秋の太陽が町一杯にひろがつてゐる日など、わけて延び／＼になつてゐる雜誌の發行のことが堪らなく氣になつて來て、私はいら／＼して、憂鬱に閉ぢこめられました。サインクのはがきが來る毎に私の心は一層あはてました。そして、結局何にも書けないまゝに日は、どん／＼經つて行くばかりでありました

こんなに發行が遲くなつた事については、申譯の言葉もないのでありますが、勘辨してほしい。とにかく、十二月號は十一月末にはぜひお手許に屆けたく。一月號からは、月ずゑ遲くも二十五日頃には出來上るやうにしなければならぬと思つて、今、その方の準備を急いでゐます。從つて、本月號は急ぐために頁數も少ないまゝにしておきました。來月號以後でこの埋合せを充分にしたいと思ひます。

×

なほ、事務所移轉については、いろ／＼御寄附いたゞいて有りがたう。何れ、來月號ではお禮に代へて委しい報告をのせたいと思つてゐますが、おかげ樣でこれで人並みに、事務所らしく落ちつきましたから、新聞や雜誌類を讀みがてら遊びに來て下さい。婦人として、社會人として讀むべき書物や小冊子も成べく多く取揃へておくやう心掛けてゐることですから、この事務所をさゝやかなれども落付いて讀書の出來る私たちの圖書室として使つてほしいと思ひます。

これまでの女の生活に何が足りなかつたと云つて讀書することほどないがしろにされてゐたものはないと思ひます。新時代に生きる婦人として、ぜひ御一緒に讀んだり、考へたり、討論してみたりもしたいものです。

×

今年の婦人界は隨分多事でございました、數年來の沈滯を破つて一度にセキを切つて水が流れ出たやうに威勢よく、各方面に婦人の蹶起が行はれました。來月號で、委しくそれ／＼の方面から今年一杯にわが婦人界がどう動いたか、どう進んだか、について皆樣から書いて頂くことになつてゐますから、それを待つて下さい。

要は、私たちのする事は何事も、飽くまで私たちの生活に根をおいたがつしりした處から、眞劍な問題から始められるのでなければ駄目です。

良家のお孃さんが茶の湯生花をならつてゐる樣な心の持方で、社會問題の本を讀んだり、婦人問題を論じたりしてゐる無責任な婦人運動者、婦人論者も、まゝ、婦人の中にあるやうですが、私たちはそんなヒマ人を輕蔑する。そんな獨りよがりの態度を輕蔑します。

◇誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部 貳拾五錢（郵稅五厘）
半年分 壹圓四拾錢
壹年分 貳圓八拾錢

送金法

送金は振替が一番便利です。
誌代の受取證は別に出しません。
雜誌發送を以てこれに代へます。

昭和二年十一月十七日納本
昭和二年十一月二十日發行

發行編輯印刷者 東京市外中野町園三二四四 奥むめお
印刷所 東京市神田區三河町三ノ六 協譽社
發行所 東京牛込區市ケ谷本村町四 職業婦人社
振替東京六四一六〇番

無產階級的智識の武器を求める無產階級必備の大寶典！

◇著者は雑誌「解放」の元主筆。現に左翼陣營隨一の理論家。本書は一名社會主義大辭典。特色は精密簡明文章の流達平易。其内容ザット左の如し。

◇第一章　空想的社會主義
◇第二章　國家社會主義
◇第三章　無政府主義
◇第四章　サンヂカリズム
◇第五章　ギルド社會主義
◇第六章　科學的共產主義（マルクス主義）
◇第七章　ボルシエヴイズス（レーニン主義）

解放群書（23）　山内房吉著

四六版二百頁　定價壹圓　送料拾錢

社會思想解說

◇社會は進展する、その進展の理法を說くものは社會思想である。故に社會思想は無產階級の思想的糧であり、唯一の武器である。これなくして、無產階級の進出はあり得ない。

◇社會發展の各段階に於て、無產階級は如何に思考したか？　現段階に於ては如何に思惟するか？　その各段階の各種の社會思想、思想家及びその術語等に至るまでを、精密に系統的に解說したものが本書である。

◇本書は實に無產階級の寶典、社會主義の字引である。

古今東西の各段階に於ける各種社會思想の精密なる大辭典！

發行所　振替東京三六九四四番　東京市芝區新櫻田町十九　解放社

大正十三年十一月二十二日　第三種郵便物認可
昭和二年十一月十七日印刷納本
昭和二年十一月二十日發行（毎月一回一日發行）

婦人運動　第五巻第十號（定價二十五錢）